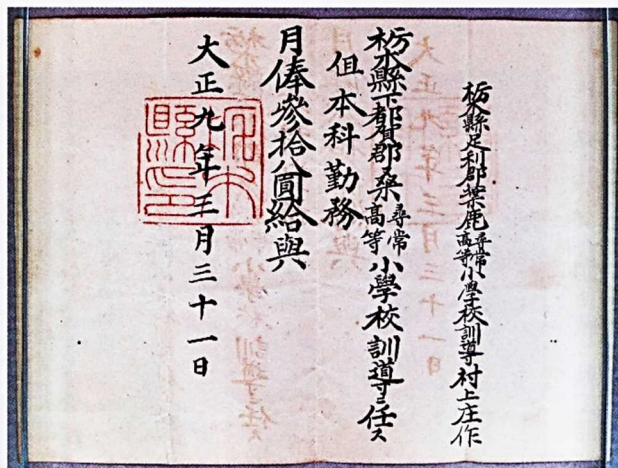
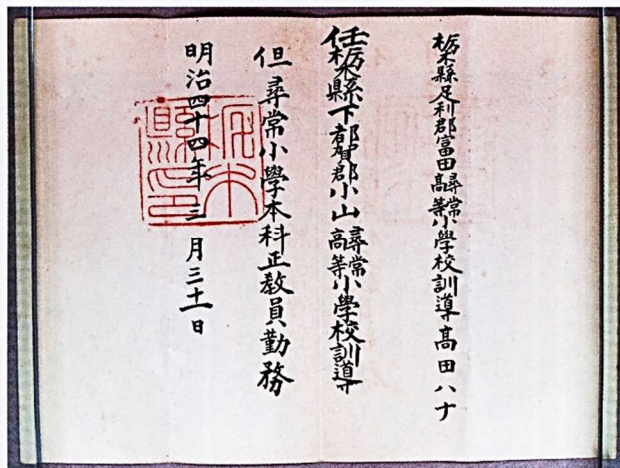


寄贈三九 大関 環家文書

今回は、明治末期から大正時代にかけて栃木県内尋常高等小学校の訓導を勤めた村上夫妻と日中戦争で戦死した愛息のことがわかる小山市の大関環家文書を紹介します。総点数は一五二点です。当館に文書を寄贈された大関環氏は、村上夫妻の曾孫にあたる方です。夫の村上庄作氏は明治十八年（一八八五）一月二十二日塩谷郡片岡村（現矢板市）の生まれです。明治三十九年（一九〇六）三月栃木県師範学校を卒業した後県内尋常高等小学校の訓導になります。塩谷郡北高根沢尋常高等小学校を振り出しに、同郡大宮尋常高等小学校、上都賀郡足尾尋常高等小学校、下都賀郡寺尾尋常高等小学校、下都賀郡栃木第一尋常高等小学校、足利郡葉鹿尋常高等小学校、下都賀郡桑尋常高等小学校に勤務しました。この間村上庄作氏は、夏季休業中などを活用し、下都賀郡教育会や下野数学院主催の国語科綴方教授法、算術科などの講習会に参加し、訓導としてのスキルアップに努めました。



No.90 〔辞令〕（桑尋常高等小学校訓導）



No.79 〔辞令〕（小山尋常高等小学校訓導）

妻のハナ氏は旧姓が高田で、明治十二年四月二十五日下都賀郡栃木町（現栃木市）の生まれです。明治三十

九年三月栃木県女子師範学校を卒業した後県内尋常高等小学校の訓導になります。足利郡筑波尋常高等小学校が初任で、以後同郡富田尋常高等小学校、下都賀郡小山尋常高等小学校（後に小山第一尋常高等小学校と校名変更）の順に勤めました。村上庄作氏との結婚は大正初期で、結婚後も小学校の訓導を勤めました。ハナ氏も残されている講習修了証から足利郡教育会や下都賀郡教育会主催の夏季講習会に参加し研修に励んでいたことがわかります。

このように、明治末期から大正時代にかけて訓導として生きた夫妻の姿が垣間見られるのも村上夫妻が辞令や講習修了証などを大切に保存してきたお蔭だと言えます。

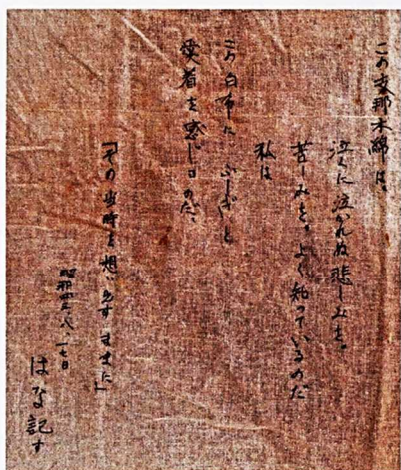
大関家文書には、このほかに夫妻の愛息で日中戦争に従軍し華北で戦死した敏雄氏の史料が残されています。敏雄氏は昭和十年（一九三五）一月宇都宮歩兵第五十九連隊に入営します。昭和十二年七月日中戦争が始まると、中国大陸に派遣されます。敏雄氏は翌昭和十三年五月華北の地で中国軍との戦いで銃弾があたり戦死しました。

大関家文書には、敏雄氏を悼む弔辞（弔詞）や戦死顛末記が残されています。迫力のある文章からはそれぞれ記した人の考えを感じ取ることができま

す。

なお、大関家文書には、中国から敏雄氏の遺骨を包み送ってきた際に使われた白布が残されています。その白布には昭和四十三年（一九六八）八月十七日に記された母の想いが記載されています。

「この支那木綿は、泣くに泣かれぬ悲しみを、苦しみを、よく知つているのだ、私は、この白布に、ふしぎと愛着を感じるのだ、その当時を想い出すままに」



No.152白布（母の想い記）

大関環家文書は当館の閲覧室で閲覧ができます。是非ご覧になって下さい。

（荒川 善夫）